

基礎研 レター

投資の善悪

お金に色があるのか、今年から始まった高校での投資教育の成功のキは親世代？

総合政策研究部 常務理事 チーフエコノミスト 矢嶋 康次
(03)3512-1837 yyajima@nli-research.co.jp

世界の利上げドミノの中でマイナス金利を続ける日本は今や珍獣レベル。それでも「投資は悪」との根強い価値観から預貯金は増える一方だ。高校での投資教育が始まったが、果たして？

「むかしむかしのことじゃった」という市原悦子のナレーションで始まる『まんが日本昔ばなし』。1975年から20年間つづいた長寿番組だ。この番組の終了から時を経ずして、日本では、日本銀行によるゼロ金利政策が始まり、2016年にはマイナス金利に突入し、金利がない世界が20年以上続いている。

世界は今年に入り金利を引き上げる中央銀行が続出している。日本とともにマイナス金利を続けてきたEUはすでに解除し、スイスも解除の方向に向かっている。日本は金利の世界においては、これからもマイナス金利継続という珍獣レベル。珍しい国になってしまった。

インフレで金利が付かない預貯金は目減りが必至だが、日本人は預貯金がいまだに大好きだ。現預貯金は2021年12月末時点で2023兆円に上り、主要国の中でもダントツで預金している。

投資は悪で預金は善

自民党の麻生太郎副総裁は昔から、労働に関してこのようなことを口にしてている。

「なぜ日本人はそんなに働くのか。古事記などによれば、天照大神（あまてらすおおみかみ）が機織り小屋から出でたまひ、神々がいかにおわすぞと天の岩戸を開けたまひ、高天原を眺むれば、神々

2022年 政策金利の動き

	(%)			
	年初		9月8日時点	今後の見通し
日本 (日本銀行当座預金のうち 政策金利残高への短期金利)	-0.1	マイナス金利を維持	-0.1	マイナス金利を 維持する見通し
米国 (FF金利誘導目標上限)	0.25	3,5,6,7月のFOMCで 4回連続の利上げ	2.5	利上げ継続の見通し
欧州 (リファイナンス金利誘導目標)	0	7,9月の政策理事会で 2回連続の利上げ	1.25	利上げ継続の見通し
スイス (スイス国立銀行 政策金利決定)	-0.75	およそ15年ぶりに 利上げを実施	-0.25	利上げを継続し、 マイナス金利政策が 解除される見通し

(資料) Bloomberg, 日本銀行

は野に出て働いていた、とある。天照大神は機織りをして働いていた。神々も働いていた。神が働くのだから、日本では労働は『善』

一方、『旧約聖書』では神との契約を破ったアダムに対して神が与えた罰が労働だったことから、欧米など多くの国とは「労働の価値観が『罰』と『善』で、決定的に異なる」と発言している（2020年、文藝春秋新年特別号）。

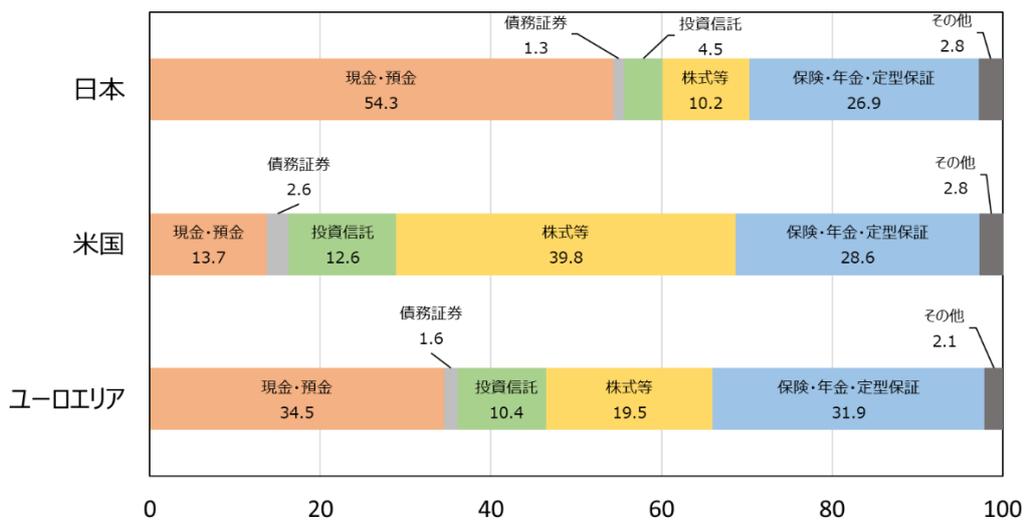
日本人は善である労働で得た現金を財布に入れて大事にしまっておく。借金や投資などに善である現金を使うなど、減相もないという感覚だ。

この価値観は、大学を卒業して働き始めた頃の私にはしっくりきていた。小さい時から親や学校の先生に「真面目に働いてお金を稼ぎなさい、株などの投資で稼いだお金はよくない」と、ことあるごとに言われ、この価値観が植え付けられていた。大学時代は財布の中に郵便局のカード1枚しかなかった。社会人になり都市銀行の口座を1つ開設し、証券会社の窓口に行き株式投資を始めたのは40歳近くだったと記憶している。もっと前からコツコツ投資をしていたら、今とはちがった資産形成になっていたはずだ。

日本人は長寿である。長く働けることは大事だが、これからは若いうちから老後資金を労働以外で形成することが大事になる。ゼロ金利の環境が長く続く昨今、預金ばかりではほとんど利息が付かず、所得の多寡でますます格差が広がるばかりになるので、どうしても資本市場と付き合う必要が出てくる。お金をきちんと投資に回すことができれば、労働と投資のワーク・ライフ・バランスができ、老後資金の蓄えも変わってくる。

翻ってアメリカでは、小さい時から投資教育がなされる。ルイズ・アームストロングの『レモンをお金にかえる法』（河出書房新社）は、アメリカの小学校で経済活動や投資などについて教えるための教科書である。レモンをお金に換えるということを通して、経済活動の根本を小さな子供に理解させ、その中でお金が持っているレゾンデートルをきちんと教え込み、賢くお金と付き合う方法を叩き込まれる。

家計の金融資産構成国際比



(注) 2022年3月末時点の値

(資料) 日本銀行「資金循環の日米欧比較」(2022年8月31日)

(%)

日本でも始まる投資教育

日本もやっと2022年から高校で投資の授業が始まった。今まで家庭科の授業は、大事なお金を「大事に使う、無駄遣いしない」「大事だから、だまされないように」といった内容だった。しかしこれからは将来に備えた資産形成の重要性を説くのだそうだ。教えるのは先生だが、投資の感覚や実践経験がない人が教えても、おそらくうまく子供には伝わらない。

日本では一つの失敗例が出ると、「ほら、やっぱり投資はダメだ」と逆向きの意見が必ず強く噴き出す。投資教育を広げるうえでの最大の壁は、現金を貯めることがよいと思っている親世代である。親世代の労働や投資の善悪に対する考えを修正しなければいけない時期にきている。

——と、エコノミストとしての意見は上記だが、私は、子供にこの先、私が知らないような新しい金融投資に関わる職につくと言われたら、「それは新しいビジネス、いいねえ！」とはなかなか言えないんだろうなあ。「それはいかがわしいぞ」と思ってしまうだろうなあ。エコノミストの意見と親としての考えはまだ乖離している。親としてはいまだ、お金には色があると思ってしまうのだ。

投資がうまく国内で廻り始めれば、当然金利も復活してくるはずである。

そうでないと、『まんが日本昔ばなし』が将来復活した時に「むかしむかしのことじゃった。日本には金利がプラスで人々は利息が付いて喜んでいた時があったのじゃ」と不名誉な紹介がされることになる。

このレポートは、新潮社 **Foresight**(フォーサイト、<https://www.fsight.jp/>)より転載したものです。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。